

学校教育全体で取り組むキャリア教育

「教科で基礎的・汎用的能力に迫る」

大田区立矢口東小学校の事例から



『各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る』

学習指導要領（平成 29 年・30 年告示）総則にはキャリア教育の充実について以下のように示されています。

【小学校学習指導要領総則（中学校・高等学校もほぼ同じ）】

児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

今号では『各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る』上でのポイントは何かを大田区立矢口東小学校の取組からします。

矢口東小学校は児童の実態や区の教育施策により、令和5年の校内研究テーマを見直して、キャリア教育に重点的に取り組むようになりました。

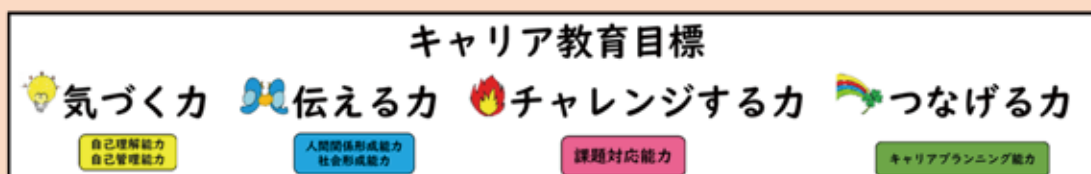
令和5年、一年間の校内研究は以下のように進められました。

【小学校学習指導要領総則（中学校・高等学校もほぼ同じ）】

知る	見取る 考える	つかむ	実践する	まとめる つなげる
4月 職員会議 今年度の研究について ○キャリア教育とは ○研究の概要 ○今年度の流れ	4月 学年会 研究部会 研究全体会 5月 褒めポイントを共有しよう ○児童の見取り ○キャリア教育目標の設定	5月 6月 (研究全体会) 講演会 提案授業 9月 キャリア教育とは何か知る ○講師による講演会 ○提案授業 ○相談会	6月 授業観察 分科会協議 指導案検討会 研究授業 10月 11月 1・2学期 授業中のキャリア教育 ○研究授業 ○分科会・研推での協議会 ○授業観察	10月 OJT研修会 学年会 研究部会 研究全体会 12月 2月 来年度に向けて ○キャリア教育全体計画と各学年の年間指導計画の作成 ○来年度の計画

学年部から提案された児童の実態が基礎的・汎用的能力(キャリア教育で育む力)とどのような関係にあるのか学校全体で整理し、キャリア教育全体目標を暫定的に設定しました。

【矢口東小学校のキャリア教育全体目標】



この過程で矢口東小学校の先生方が大事にされたポイントは3つです。

- 子どもも保護者も分かる言葉にする。
- ダブルバーレルにならないようにする。
- 系統性をもたせる。

学年部から提案された児童の実態が基礎的・汎用的能力(キャリア教育で育む力)とどのような関係にあるのか学校全体で整理し、キャリア教育全体目標を暫定的に設定しました。



この授業づくりのポイントは2つです。

- 教科の目標と本校のキャリア教育の目標がどう結びついているのか整理する。
- 家庭を学習の場とする。

【矢口東小学校 生活科の目標と本校のキャリア教育目標との関連】

生活科の目標（学習指導要領より抜粋）

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （１）活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気づくとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- （２）身近な人々、社会及び自然との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- （３）身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

低学年のキャリア教育目標

- ・気づく力……………「ともだちの よさに きづくことが できる」**気**
- ・伝える力……………「じぶんの おもいをつたえる ことができる」**伝**
- ・チャレンジする力…「はじめての ことも やってみようと する」**チャ**
- ・つなげる力……………「じぶんの まわりの ひとたちのことを
もっとしりたいとおもう」**つ**

（１）の「身近な人々～かかわり等に気づく」と関連

（２）の「表現すること」と関連

（１）から（３）全体に関連

（１）から（３）全体に関連

生活科の内容は「○○を通して（具体的な活動や体験）、○○ができ（思考力、判断力、表現力等の基礎）、○○が分かり・に気が付き（知識及び技術の基礎）、○○しようとする（学びに向かう力、人間性等）」のように構成されていて、矢口東小学校のキャリア教育目標である「気づく力」と「チャレンジする力」との関連が深いことを確認しました。また、低学年の発達段階を踏まえ、友だちとの意見交流の中で、自他のよさや自身の行動が家族の笑顔につながっていることに気付く機会とすることもキャリア教育の手だたすることを確認しました。



授業では、家族が笑顔になる場面を家庭で観察してきた児童が“観察内容の発表”“場面の分類整理”“家族が笑顔になる理由の推測”“家族が笑顔になるために自分ができることの意味決定”の流れで構成されていました。

児童 父さんが帰ってきて、“お帰りなさい”“抱っこして”って言ったら、お父さんがグーってしてくれました。その時のお父さんが笑顔でした。

児童 ママはアイドルの「なにわ男子」を見ている時にめっちゃ笑顔になります。私が一緒にペンライトを振るともっと笑顔になります。なんか私も楽しくなってきます。

児童 ぼくが算数で100点取ったら、ママもパパもすごく笑顔になりました。ぼくの100点なのになんか不思議でした。けど、うれしかったです。

児童 タオルをたたむのを手伝うとママは笑顔になります。ママの笑顔にぼくはつながっているのかもしれないと思いました。

児童 お料理や片付けを手伝うとみんな喜んで笑顔になってくれます。手伝いが笑顔につながるのかな？

児童 ママを笑顔にするために、ママに愛を伝えたいです。(――) なんかはずかしいかな!?!



こういった児童の発言やワークシートへの記載から生活科の目標を捉え、矢口東小学校のキャリア教育目標「気づく力」と「チャレンジする力」に迫る授業になっていたか先生方は分析・検討しました。

授業者は以下のように振り返っています。



教師 正直、こんなに単元のことを深く考える機会になるとは思いませんでした。キャリア教育の授業なのに、キャリアの目標も生活科で実現するために、単元の教材研究の質が自然と高まりました。

教師 生活科とキャリア教育のゴールは一緒という意識で研究をしました。家族の一員という意識が当初は低かったですが、保護者から手紙を受け取りみんな普段見せない表情を見ることもできました。これからは〇〇作戦をしたいという児童もいて単元とキャリアのねらいは達成できました。

この事例には、教科とキャリア教育の目標を別に追うのではなく、教科の目標の中にある基礎的・汎用的の能力をしっかりと整理することが『各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る』上でのポイントであることを示しています。次号では中学校における教科でのキャリア教育の取組事例とそのポイントを紹介します。

【矢口東小学校 生活科の目標と本校のキャリア教育目標との関連】

	🌟気づく力	👤伝える力	🔥チャレンジする力	🌈つなげる力
特別支援学級	自分のやるべきことに 気づくことができる	自分の気持ちや考えを 伝えることができる	苦手なことにも 取り組むことができる	自分の周りの人たちのことを もっと知りたいと思う
低学年	ともだちの よさに きづくことが できる	じぶんの おもいを つたえることが できる	はじめての ことも やってみようと する	じぶんの まわりの ひとたちのことを もっと知りたいとおもう

「キャリア教育レポート」No.1

「キャリア教育レポート」は全国のキャリア教育に関する事例紹介等を行っています。

編著 長田 徹(文部科学省教科調査官／国立教育政策研究所教育課程調査官)

協力 株式会社 実業之日本社(〒107-0062 東京都港区南青山 6-6-22 ☎03-6809-0770)